**京都最低生計費試算調査（通称、生活実態調査）の結果報告**

資料②

**―京都で普通に子育てをするためには年間５８０万～８５０万円必要！―**

2019年12月5日

京都地方労働組合総評議会

○京都地方労働組合総評議会（京都総評）では、昨年より生計費調査に取り組んでいる。今回は、京都で**子どもを普通に育てるためにはどのくらい費用がかかるのか**を明らかにしたい（今年５月には、若者が1人くらしをするための費用を公表し、大きな反響を得ている）。

○具体的には、主に京都総評に加盟する各単産・ユニオンの労働者などを対象に、生活のパターンを調べる**「生活実態調査**」および持ち物をどれくらい所有しているのかを調べる「**持ち物財調査」**を実施し、その結果を精査し生活に必要な費用をひとつひとつ丁寧に積み上げて算定している（マーケット・バスケット方式の採用）。

〇この調査には、約4700名以上が回答に協力している。今回は、そのうち実際に子育て中の**30代＝321ケース、40代＝481ケース、50代＝563ケース**のデータを分析した結果を報告するものである。

○京都市で**子どもを普通に育てるため**には、30代で**月額486,913円、**40代で**月額549,823円**、50代で**月額707,536円**（ともに税・社会保険料込み）が必要である。これは年額に換算すると30代＝**約584万円**、40代＝**約660万円**、50代＝**約850万円**になる。

○ここで想定する「普通の生活」とは、以下のような内容である。30代は夫婦と小学生、私立の幼稚園に通う幼児からなる4人家族。43㎡前後の賃貸マンション/アパートに住み、家賃は61,000円。1か月の食費は約11万円あまり（夫の昼食は月の半分はコンビニ弁当。飲み会の費用は4,000円だが、行けるのは月に1回のみ）。小型自動車を1台所有し、買い物や子どもの送り迎えに利用（車の維持に1か月あたり約37,000円）。お花見や海水浴など日帰り行楽は月に1回（1回の費用は家族みんなで5,000円）。**教育費は1か月あたり約28,000円**。40代なると、子どもが成長して、小学生と中学生となり、**月あたりの教育費は約39,000円に増える**。さらに、50代になると、長男は京都市内の私立大学に通い始め、一気に学費が跳ね上がる。**1か月あたりの教育費は約13万円で、このうち大学生にかかる教育費が約11万円である**。学費が家計を圧迫していることが分かる。回答者全体で、自分や子どもの奨学金の返済をしている割合は26.5％に達しており、返済額の平均は21,413円であった。

○冷蔵庫、炊飯器、洗濯機、掃除機、エアコンなどの家電は、量販店で最低価格帯のものでそろえ、夫は背広2～3着（約20,000円）を着回しているなど、けっして贅沢な暮らしではなく、むしろ慎ましいとも言える生活である。

〇家族を形成するにはお金がかかり、結婚や子どもを持つことのハードルが高くなってしまっている。特に、非正規労働者にとっては、家族を持つことはもはやステイタスになってしまっている。この状況を変えるためには、生計費原則にもとづく大幅な賃上げとともに、社会保障制度も充実させていくことが求められるのである。

以上